

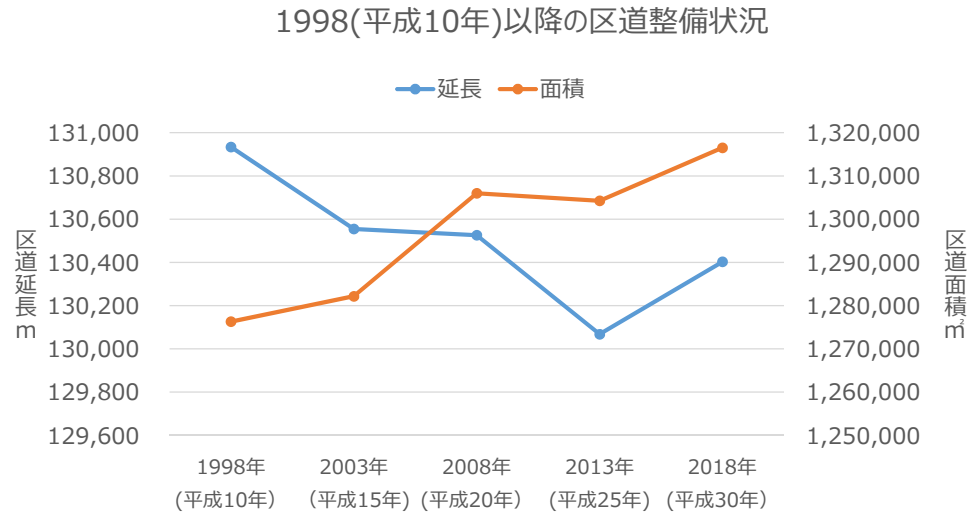
2. 主な都市施設

2.1. 道路	52
2.2. みどりと公園	55
2.3. 上下水道	58

1 区道整備の状況 ~区道整備は横ばい~

この20年間で区道延長は若干減少した一方で、面積は増えています。また、平均幅員は、23区部平均より広がっていますが、車道幅員5.5m未満の道路が区道全体の4割を占め、広幅員（車道幅員19.5m以上）は区道全体の0.4%にとどまっています。

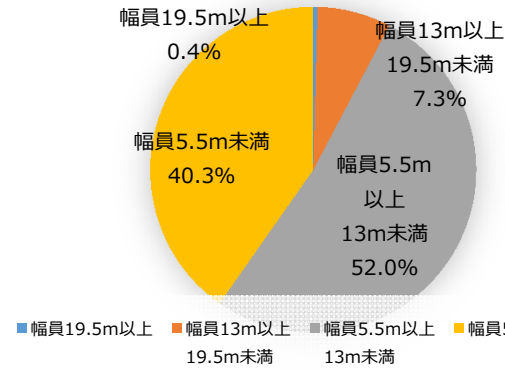
● 区道整備の推移 平成30年東京都道路現況調査



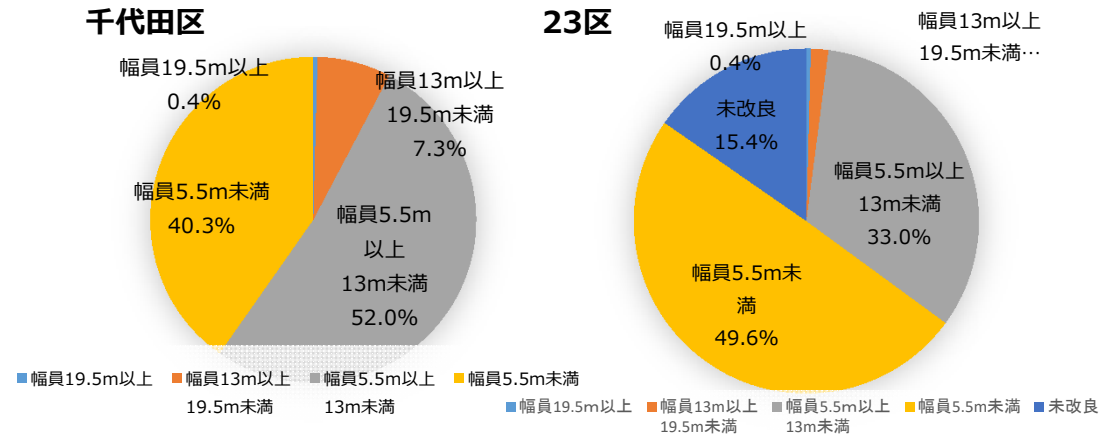
● 区道の車道幅員別整備状況比較 (延長m) 平成30年東京都道路現況調査

	車道幅員 19.5m以上	車道幅員 13m以上 19.5m未満	車道幅員 5.5m以上 13m未満	車道幅員5.5m 未満	未改良
千代田区	547	9,522	67,829	52,505	0
23区	44,388	175,542	3,527,962	5,301,014	1,642,326

千代田区



23区



● 区道整備状況 平成30年東京都道路現況調査

	総延長m (A)	総面積㎡(B)	平均幅員 (B/A)
千代田区	130,403	1,316,523	10.1
23区	10,691,232	70,426,545	6.6

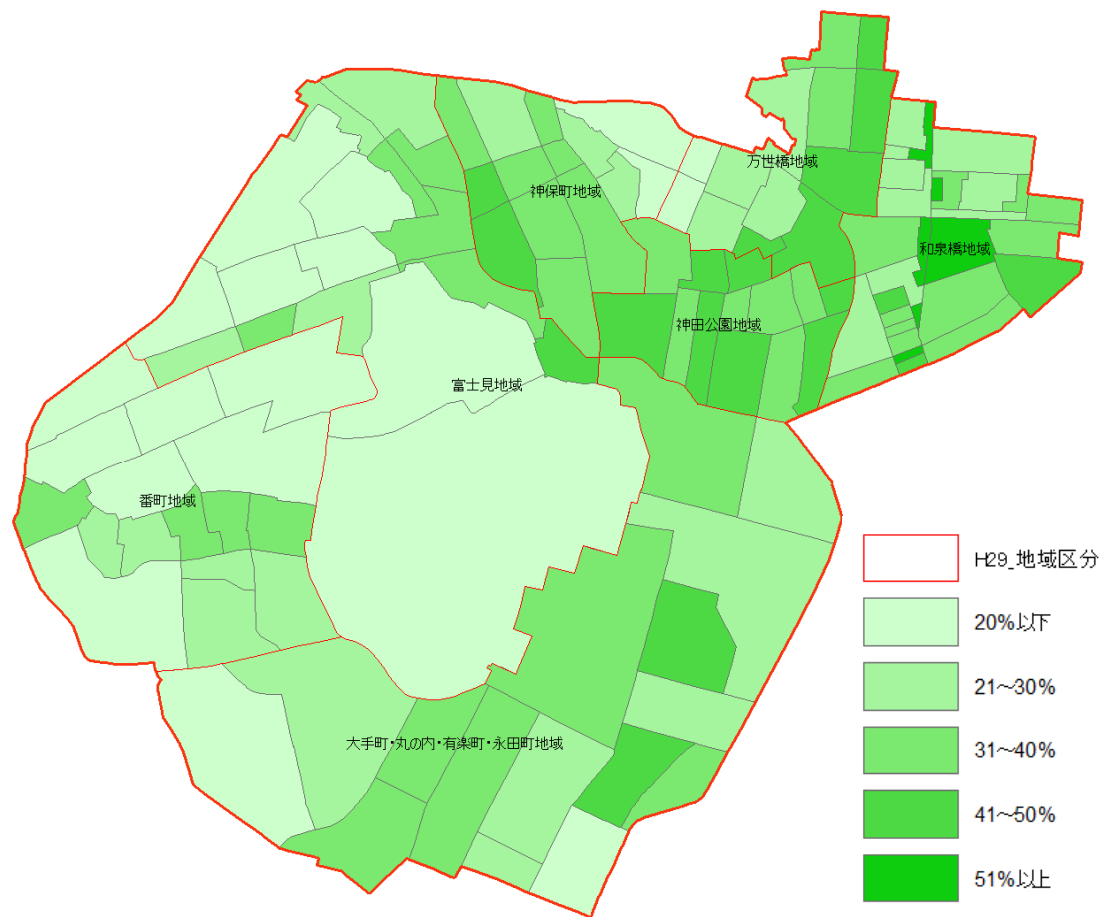
2 道路面積率 ~23区の平均を上回り、町丁によっては40%を超える~

土地利用面積に対する道路面積の割合である道路面積率は、23区平均18.9%を約6ポイントを上回り24.8%となっています。また、皇居等を除くと30%を超えます。また、地区別にみると神田地域で40%を超える町丁が散見されます。

● 道路面積率の動向 平成28年東京の土地利用

	2001 (平成13)年度	2016 (平成28)年度
千代田区	24.4%	24.8%
23区	18.1%	18.9%

● 町丁目別道路面積率 平成28年東京の土地利用



● 23区道路面積率の状況 平成28年東京の土地利用

	区	率
1	中央区	29.6%
2	台東区	26.6%
3	千代田区	24.8%
4	墨田区	23.3%
5	港区	21.3%
19	北区	17.9%
20	中野区	17.7%
21	杉並区	17.3%
22	世田谷区	17.2%
23	大田区	15.1%

<参考> 皇居等を除く道路面積率 平成28年東京の土地利用/東京都統計年鑑

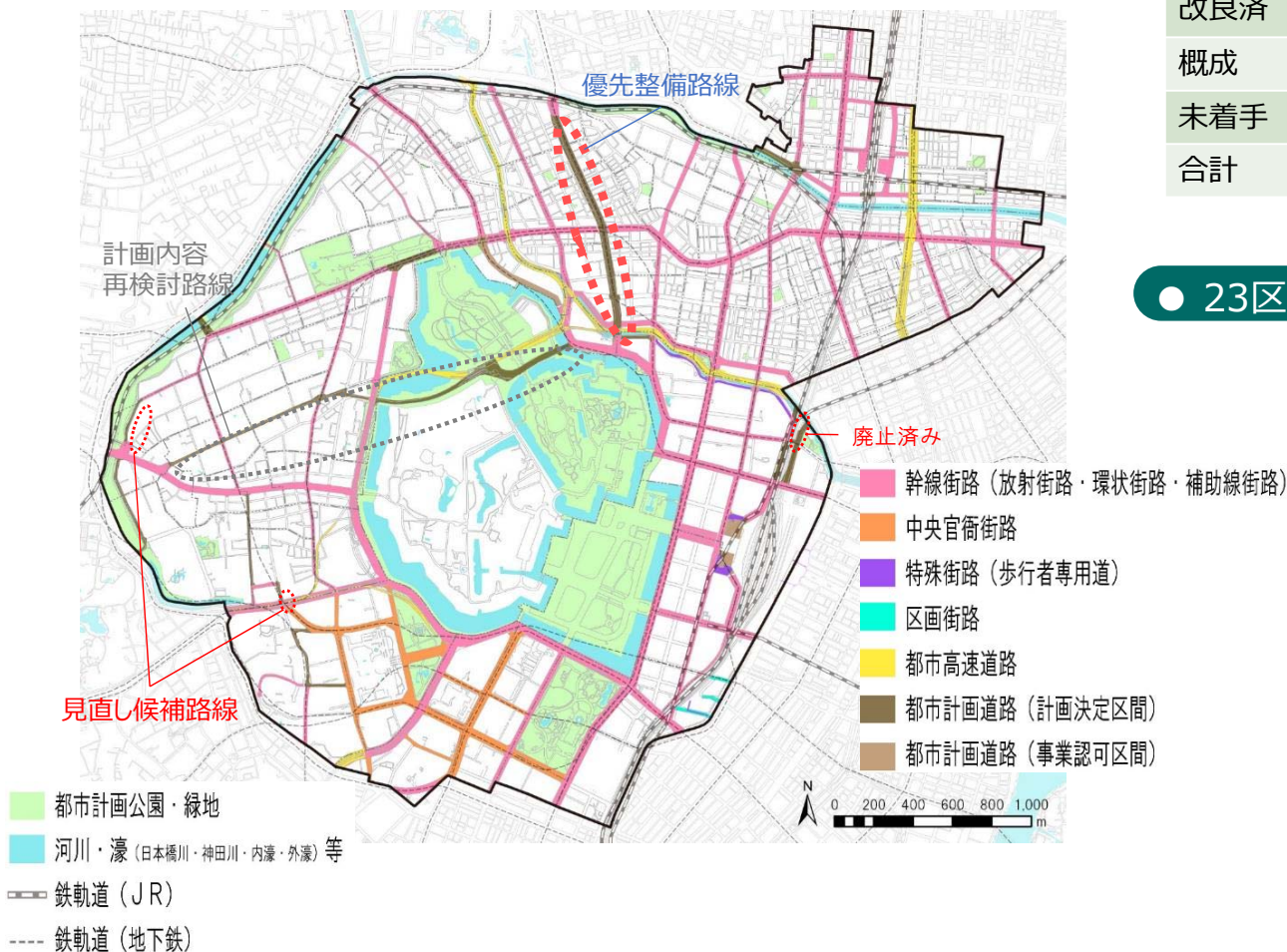
	合計	皇居・北の丸公園等	道路面積	皇居等を除く道路面積率
千代田区	1136.2ha	268.0ha	282.3ha	32.5%

3 都市計画道路の整備 ～23区でも高い都市計画道路整備率～

我が国でも最も早く都市化が進み、関東大震災で壊滅的な被害を受けながら、震災復興都市計画で都市基盤の整備がすすめられた千代田区は、都市計画道路の整備率は23区でも中央区に次いで高く84.9%となっています。

なお、2016（平成28）年度から10年間の間に優先的に整備すべき路線として、放射街路第9号線（白山通り）が選定されています。

● 都市計画道路の分布 千代田区都市計画図



● 都市計画道路現状

（自動車専用道除く）平成28年度都市計画現況調査

進捗状況	延長(km)	割合(%)
改良済	46.35	85
概成	5.35	10
未着手（現道なし）	2.88	5
合計	54.58	

● 23区都市計画道路完成率

平成28年度都市計画現況調査

	区	率
1	中央区	87.9%
2	千代田区	84.9%
3	台東区	84.1%
4	江東区	79.1%
5	渋谷区	78.6%
19	文京区	52.3%
20	練馬区	51.4%
21	世田谷区	50.1%
22	杉並区	49.6%
23	大田区	41.4%
	東京都市計画区域	64.9%

この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1の地形図を使用して作成したものである。（承認番号）30都市基交第44号

自動車専用道含まず

1 みどりの面積 ~増える都心のみどり、15年間で約34ha増加~

東京全体の緑が減少する中で、千代田区では緑被率が増加傾向にあります。一方で、地域別にみると、皇居や外濠に隣接する富士見地域や番町地域と神田地域との緑被率は20~30%以上差があり、「緑の偏在」が課題です。大丸有地域や富士見地域、神保町地域など、平成15年から30年の調査の間に、大規模な市街地の機能更新のあった地域では緑被面積が増加しています。

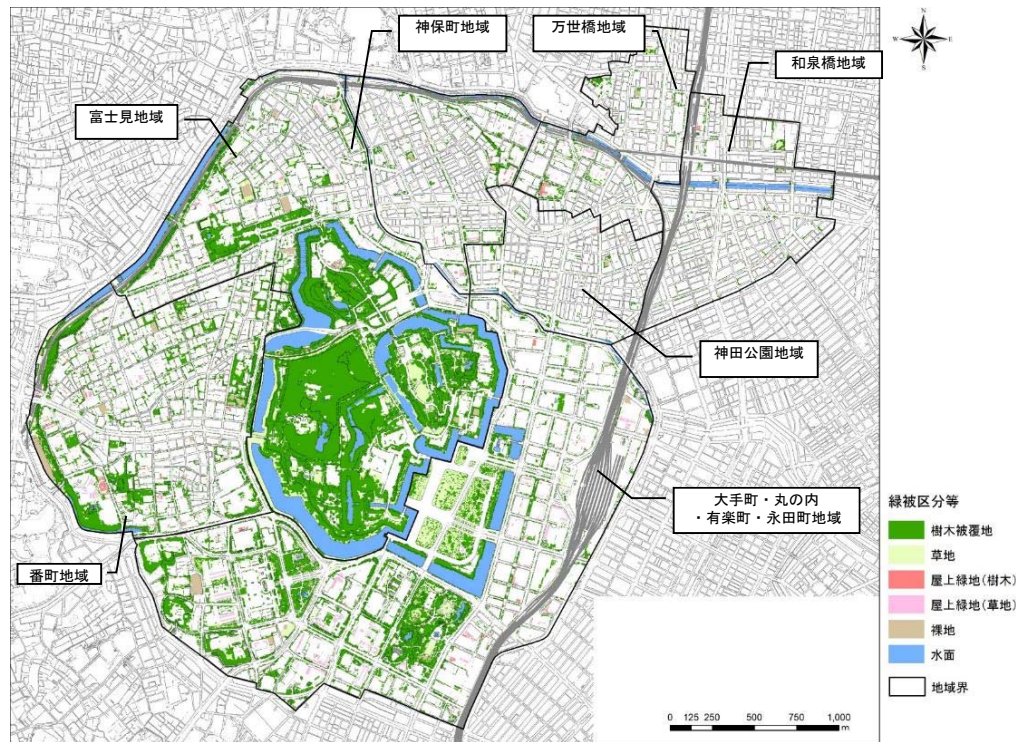
● 緑の面積の推移 平成30年度千代田区緑の実態調査

	平成15年		平成30年		増減	
	面積(ha)	構成比(%)	面積(ha)	構成比(%)	面積(ha)	増減率
樹木地	191.71	16.47	223.21	19.14	31.5	16.43%
草地	40.41	3.47	36.69	3.15	-3.72	-9.2%
屋上緑化地	4.76	0.41	10.86	0.94	6.1	128.15%
緑被地計	236.88	20.35	270.76	23.22	33.88	14.3%
水面	60.70	5.22	61.43	5.27	0.73	1.2%
合計	297.58		332.19		34.61	11.63%
緑被率	20.4%		23.2%		2.8%増	

● 地域別緑被の状況 平成30年度千代田区緑の実態調査

	緑被面積 (ha)		緑被率 (%)		増減	
	平成15年	平成30年	平成15年	平成30年	緑被面積	緑被率
番町地域	35.12	39.70	20.01	22.57	4.58	2.56
富士見地域	124.53	133.33	39.96	42.71	8.8	2.75
大丸有地域	65.21	79.31	19.68	23.89	14.1	4.21
神田公園地域	2.01	2.74	2.74	3.71	0.73	0.97
神保町地域	4.15	6.92	4.35	7.22	2.77	2.87
和泉橋地域	1.96	3.48	2.03	3.58	1.52	1.55
万世橋地域	3.87	5.28	4.89	6.66	1.41	1.77

● 緑被地の分布 平成30年度千代田区緑の実態調査



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。(承認番号)30都市基交著第44号

● 参考 東京の「みどり率」の変遷 平成26年東京都環境局調査

	平成15年	平成25年
都全域	52.4%	50.5%
区部	20.0%	19.8%
多摩部	69.8%	67.1%

みどり率：みどりが地表を覆う部分に公園区域・水面を加えた面積が地域全体に占める割合

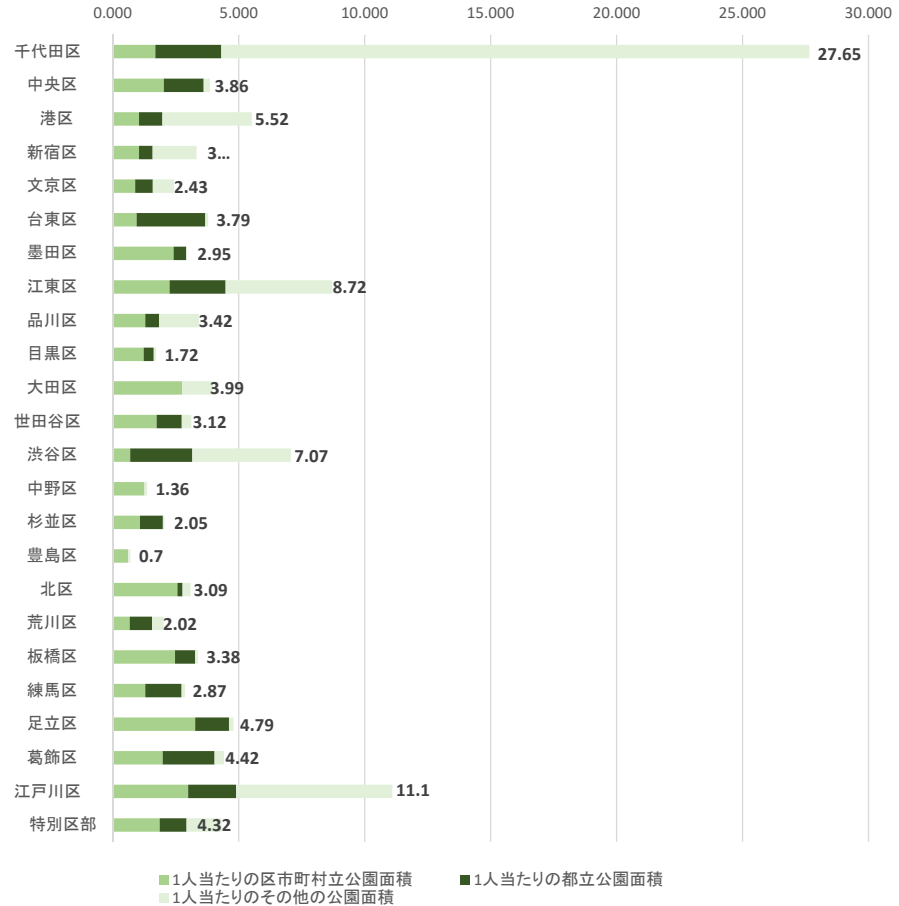
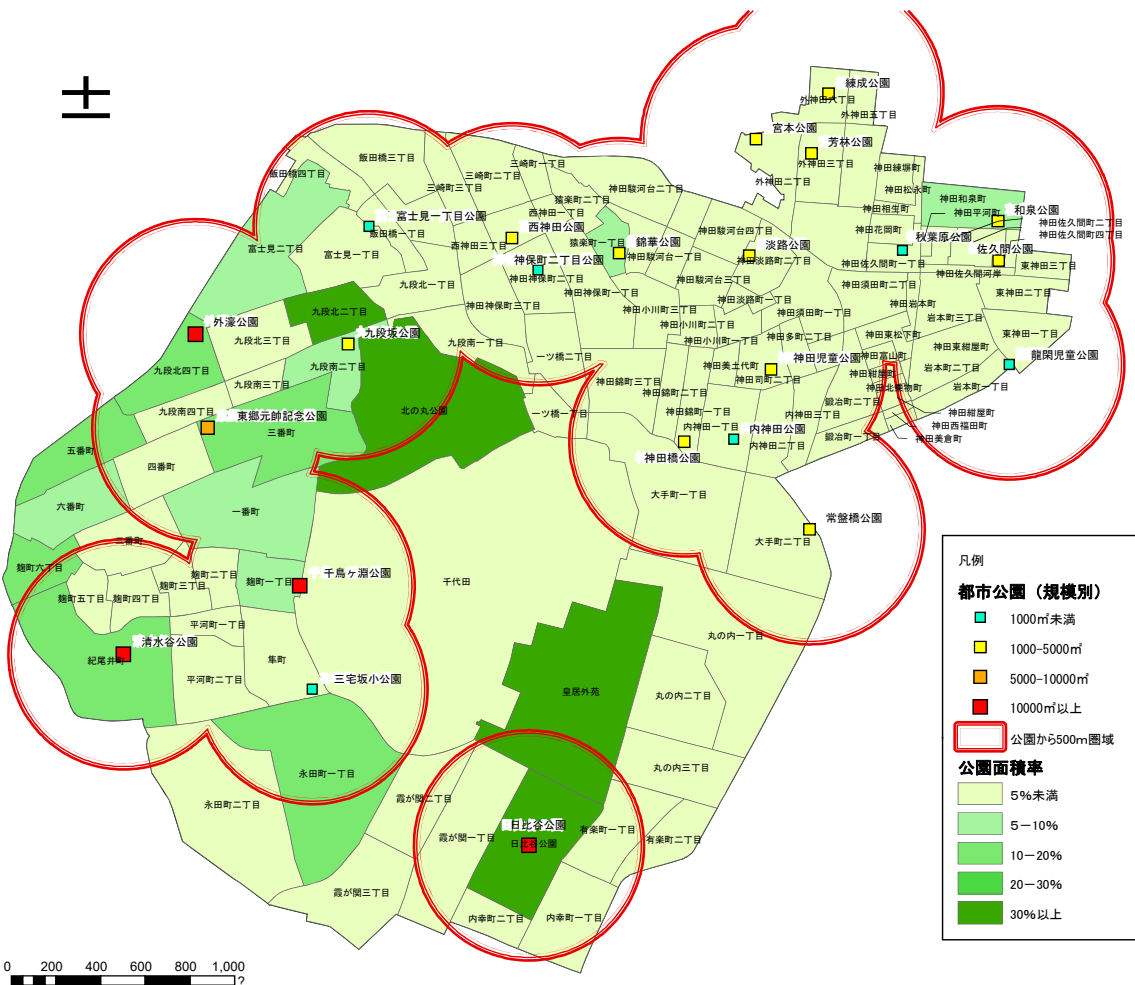
2 公園の分布と一人当たり面積 ~区民一人当たり公園面積は23区で1位~

北の丸公園や日比谷公園の立地する町丁目では、公園面積率（公園面積／町丁目面積）が30%以上を超えている地区があります。都市施設としての公園から500m圏域とした場合、番町地域の一部などでカバーできていない箇所が存在しています。

また、国民公園等大規模な公園面積があることから、1人あたり公園面積は23区では群を抜いて高くなっていますが、区立公園だけを比較すると他の23区と同程度の面積となっています。

● 規模別都市公園の配置、公園面積率、公園から500m区域 千代田区調査

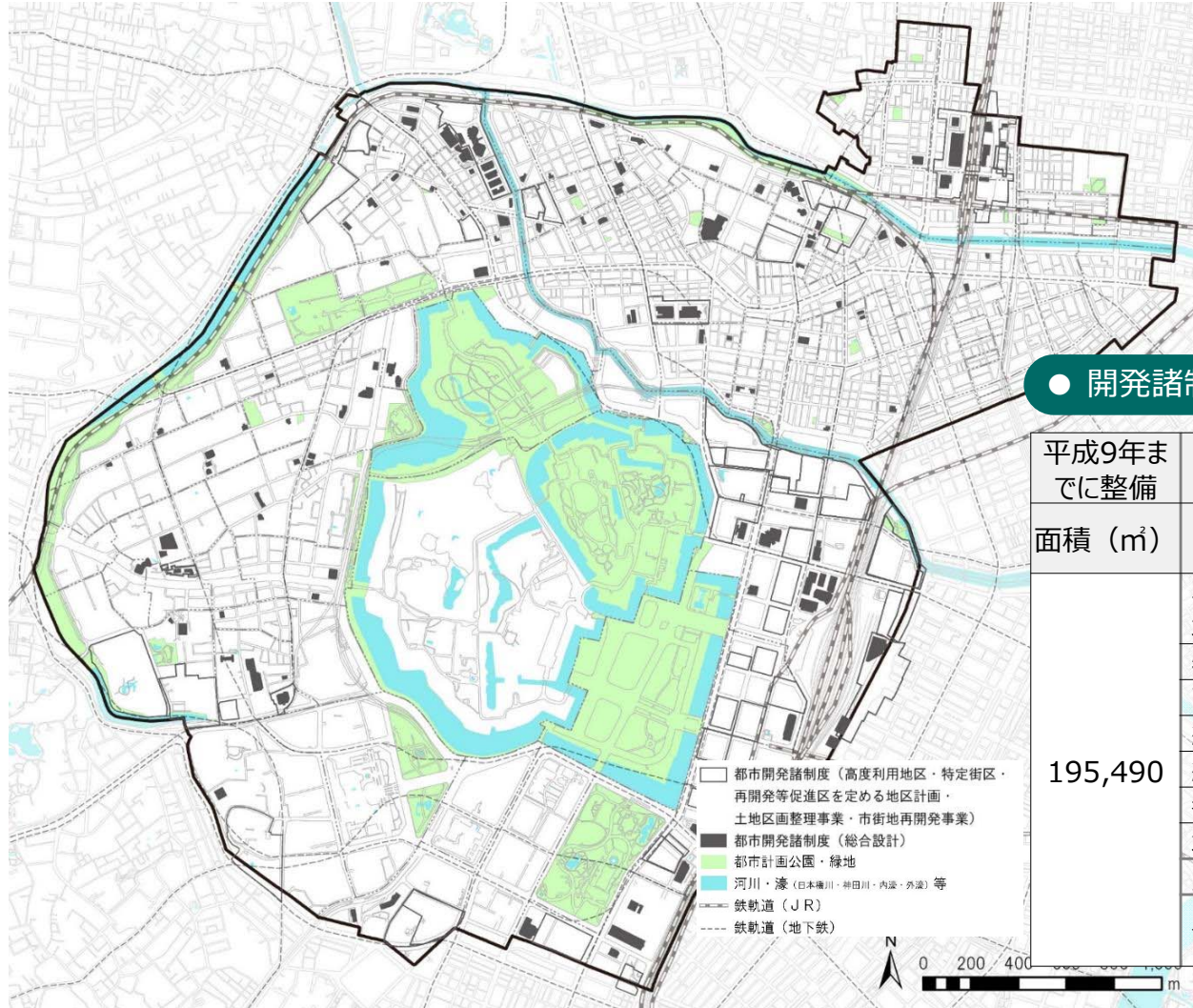
● 一人当たり公園面積の比較 特別区の統計2018



3 公開空地等の現状 ～約45haの空地进行を創出～

高密度に市街地が形成し、地価が著しく高い千代田区において、行政自らが公園や緑地のために土地を調達することは非常に困難です。そこで、これまで区では、都市開発諸制度を活用した都市開発、建築計画において、みどりを備えた公開空地等の整備を誘導することにより、都市における良質な空間の確保を図ってきました。1998（平成10）年以降、およそ45haの空地进行を創出しました。

都市開発諸制度等の活用により、平成30年現在、平成9年時点の約2.3倍にあたる45万㎡超の空地进行が創出。



都市開発諸制度：公開空地の確保など公共的な貢献を行う建築計画に対して、容積率や斜線制限など建築基準法に定める形態規制を緩和することにより、市街地環境の向上に寄与する都市開発の誘導を図る制度。

● 開発諸制度等を活用し創出した空地の状況 千代田区調査

平成9年までに整備	1998（平成10）年から2018（平成30）年に整備		
面積（㎡）	都市開発諸制度等	創出空地面積（㎡）	割合（%）
195,490	再開発等促進区を定める地区計画	64,658	13.3
	特定街区	86,926	18
	高度利用地区	13,375	2.7
	総合設計（都）	187,600	38.6
	総合設計（区）	5,542	1.1
	都市再生特別地区	87,082	18
	地区計画による担保	27,350	5.6
	大丸有地区の一般設計	12,960	2.7
	合計		485,493
		H9時点の約 2.5倍	

1 上下水道

● 東京水道の課題 東京都水道施設整備マスタープラン

- 1 水道施設の老朽化と更新時期の集中
 - 浄水場は平成30年代から一斉に機能更新を迎える
 - 主要管路の一部は、取り換え工事に必要なバックアップ管路が確保されず、現状では取替えが困難
- 2 大震災・災害の脅威
 - 切迫する首都直下地震の可能性
 - 大型台風やゲリラ豪雨に伴う水道施設冠水の発生
- 3 気候変動の影響
 - 温暖化に伴う雪解けの早期化等により厳しい湯水発生のおそれ
 - 温暖化に伴う水温上昇により水中生物の異常発生、豪雨による急激な原水水質悪化の可能性

● 区内の上水道施設 東京都統計年鑑（平成29年）

		1998 (平成10) 年度	2017 (平成29) 年度
配水管 (m)	総延長	279,162	289,859
	配水本管	44,931	46,779
	配水小管	234,231	243,081

● 使用水量 東京都統計年鑑・水道局年報

単位：千m³

	1998 (平成10) 年度	2016 (平成28) 年度
千代田区	37,090	31,814
区部	1,090,950	1,074,419

● 東京下水道の課題 東京都水道施設整備マスタープラン

東京2020大会の開催とその後の東京のあり方を見据えた下水道のサービスの更なる向上に取り組むための5カ年計画

【重点施策】

- ・下水道管の再構築
整備年代が古い都心4処理区で再構築完了割合を向上
- ・浸水対策
市街地における浸水対策をレベルアップ
浸水予想区域図の見直し等ソフト対策を充実
- ・震災対策
下水道管の耐震化を面的に実施
- ・合流式下水道の改善
整備ペース加速
- ・高度処理
- ・エネルギー・地球温暖化対策

● 区内の下水道施設 東京都統計年鑑（平成29年）

ポンプ所	下水道・暗きよ(m)			マンホール	汚水柵
	総数	幹線	枝線		
1	292,427	37,441	254,986	6,694	26,367

● 汚水の排出量 東京都下水道局資料

単位：千m³

	2016 (平成28) 年度
千代田区	30,572
区部	1,082,185